

古代ギリシア語

古典ギリシャ語の学び方

竹島 俊之

1『古典ギリシア語初歩』水谷智洋著、2『ギリシア語の学び方』M・アモロス著、3『基礎ギリシア語文法』高津春繁著

『古典ギリシア語初歩』は1990年第1刷発行以来毎年新しい刷を重ね、1998年4月にギリシャ語受講者の買った教科書の奥付きを見るとすでに9刷となっていた。古典ギリシャ語の入門書として今いかに広く日本で使用されているかを示すものといえる。

その理由は私には簡単であるように思われる。練習問題に使用されている文がすべて古典の原典から引かれていることである。名詞の格変化の説明、動詞の各時制の人称変化の説明、その他もろもろの文法的説明はどの文法書でも似たり寄ったりでそこに特色が出せるはずがない。違いは練習問題としてどのような文を用いるかということによって出てくるのである。

この書の巻末に主要出典一覧が掲載されているが、アテーナイオスから始まって34名の名前が挙げられている。いずれもギリシャ古典の中核をなす人たちである。誰もが知っている人名のほんの一部を紹介してみると、アイスキュロス、アイソポス、エウリピデス、ヘロドトス、トゥキュディデース、ホメロス、プラトン、プルタルコス、ソフォクレス等々。

ギリシャ古典から直接引用された文で初級文法の練習問題を構成することがいかに画期的であり、また初級文法書を構成する上でいかに重要であるかを私が常日頃いただいている言語観を交えながら以下に述べておきたい。

普通初級文法書で練習問題として使われている文はおよそ文脈とは関係のない無味乾燥な単文の羅列である。たとえば、

練習問題 x 次の文を和訳しなさい。

1. ἐκρούομεν τὴν θύραν. —われわれは戸をたたいていた。2. τὴν στρατιὰν ἔπεμπον εἰς τὴν χώραν. ἐπέλαζον γὰρ οἱ Πέρσαι. —彼らは兵をその地方に送った。ペルシャ人が近づいていたからである。3. ἐπιστεύομεν τοῖς τοῦ διδασκάλου λόγοις. —われわれは先生の言葉を信じていた。4. δῶρα ἐπέμπετε τῇ στρατιᾷ. —君たちは軍隊に贈物を送りつつあった。5. καὶ διὰ τοῦτο ἐδίωκον οἱ Ἰουδαῖοι τὸν Ἰησοῦν. —そしてこのためにユダヤ人たちはイエスを追っていた。5. ἐθύομεν τῇ θεᾷ παρά τῇ θαλάττῃ. —われわれは海辺で神に犠牲を捧げていた。等々

こうした単文が練習問題に使われるのはその課で説明されている形態上の文法規則、たとえば未完了過去形を覚えさせようとするためと考えられる。しかしこんな練習をいくら繰り返してもその形態は何人も絶対に覚えられないのである。

各形態について一つづつ確実に覚えさせようという配慮からたくさんの練習問題を用意しているのは『ギリシア語の学び方』である。例えば未完了過去の章ではA 10問、B 10問、C 10問、Dギリシャ語訳3問が用意されている。たとえば、

A. 次の各文を未完了過去になおしなさい。1. οἱ στρατιῶται φεύγουσι εἰς τὰς Ἀθήνας. 2. τῷ στρατηγῷ οὐ πιστεύομεν ...

という具合に各章においてこのような練習問題が豊富に用意されている。おそらくこれがヨーロッパでの古典教育の方法論の真髄を示すものと思われる。しかしこうした課題を毎時間強制的に押し付けられた場合には誰でも古典語の学習が嫌になることは明らかである。こうした教育方法がヨーロッパでの古典語教育を後退させた大きな原因であったと私は考える。

初級文法を習う段階では一つ一つの形態を覚えていく必要は全くない、と私は考える。「文法がわからなくなったら文法書を見ればいいじゃないか、それよりも大切なのは早く書き言葉の世界に入りこんで、その言語で書かれたたくさんの作品を読むことだ。古典と言われるものはどの作品でも読者を虜にしまうほど強い牽引力を持っている。その力によって数多くの作品を読んでいくうちに、あのあまりにも複雑にみえていた語形も自分で気づかぬうちにすべて覚えてしまっているのだ。」という言葉は私はよく使う。

さて、『古典ギリシア語初歩』の練習問題は先ほど述べたようにすべて古典

の作品の原典からとられたものである。したがって一つ一つの練習問題はギリシア語の構文構造の特性を自分が納得する形で把握しないかぎり、理解できないのである。そして構文構造を正確に把握してはじめて書き言葉の世界に入っていけるのである。この問題に挑戦して格闘している間に「文」とは英文法で主張されているように主語、述語、目的語から成り立っている、というような単純な構造ではなく、定動詞句、分詞句、不定詞句などが一定の内的規則によって配列され、統治されて形成される、ということが自然に分かってくる。その一定の内的規則というのが構文規則である。その構文規則を会得してはじめて書き言葉の世界へ入っていけるのである。一つ一つの単語の意味を覚えるより、このことの方が初級文法の段階でははるかに重要なのである。単語の意味が分からなければ辞書を引けばよいではないか。

かつてのアメリカ構造主義言語学はこの面で何か貢献しただろうか。答えは「否」である。その目的は滅び行くアメリカインディアン言語を記述することにあつたのであり、その資料は徹頭徹尾会話であり、言語学者の言う文とは一つか二つの単語からなる語の連なりであり、その語と語との前後関係を数多くの言語で比較検証し、記述するのに全精力を傾けていたのである。彼らは構文規則とは全く無縁の所で仕事をしていたのである。彼らの主張に対して何ら批判することもせず、盲従したヨーロッパの知識人たちは、文とは何かが分からなくなり（『ギリシア語の学び方』に採録されている膨大な数の例文はすべて英文法でいう単文である）、ついに自分たちの文明の基礎である古典を捨てることになったように思われる。

ここで『古典ギリシア語初歩』から練習問題を一つだけとり出し、それがどのような体裁をとっているかを提示しておこう。

練習30 訳せ。 5 Εὐρυδίκη, ἡ γυνὴ τοῦ Ὀρφῆως, δηχθείσα ὑπὸ ὄφως ἀπέθανεν. ὁδὲ Ὀρφεὺς κατελθὼν εἰς Ἄιδου Πλούτωνα ἔπεισεν ἀνάπεμψαι αὐτήν. ὁδὲ ὑπέσχετο τοῦτο ποιήσειν, ἂν μὴ πορευόμενος Ὀρφεὺς ἐπιστραφῆ πρὶν εἰς τὴν οἰκίαν παραγενέσθαι. ὁδὲ ἀπιστῶν ἐπιστραφεὶς ἐθεάσατο τὴν γυναῖκα, ἡ δὲ πάλιν εἰς Ἄιδου κατηνέχθη. Απολλοδώρος 1.3.2.

「オルフェウスの妻エウリュディケーは蛇に噛まれて死んだ。オルフェウスは冥府のプルートーンの所へ降りて行き、彼女を返してくれるよう説得した。もしオルフェウスが道を進んで行って、家につくまで振り返らなかつたら、そうしようとして約束した。彼は命令に従わずに振り返って妻を見た。彼女はふたたび冥

府へと降ろされた。」

文とは一つの統一体であり、その統一体にはいわば血が通っていて、ある種の温もりが感じられ、ある一つの考えを表出しているものと言えるかもしれない。学習者はこうした文と取り組み、格闘し、苦労した後、正確な文意が汲み取れたとき、そこに知的喜びを感じ、また新たに次の練習問題へと立ち向かう勇気をえるのだと思う。このようにして次第に古典ギリシャ語固有の構文規則を習得してゆき、何の抵抗も感ぜずに書き言葉の世界へ入っていきけるのだと思う。

このようにして初級文法を終えた彼らと私は、中級では毎年『ヨハネ伝』を読むことにしている。私の教授方法はまず原文1頁くらいを朗読させ、その後訳出させるのであるが、彼らはよどみなく、すらすらと正確に訳していく。その後正確に訳したにもかかわらず、念をおすために私がもう一度訳出して次の担当者になる。このようにして一回の授業で最低3頁は進むので、前期と後期の授業でヨハネ伝は1章から20章まで完全に読破でき、さらに使徒行伝も数章読むことができるのである。今後彼らは自力であの無尽蔵といってもよい古典ギリシャ文明を伝える文献の世界へ入っていき、それによって自分の精神世界を豊かなものにすると同時に、そこで見つけた新しい情報を日本人に紹介し、それを日本文化のなかに持ち込むことができるだろうという気さえするのである。

最後に上述の文法書が出る前に5年間使った『基礎ギリシア語文法』に触れておこう。これは前半は練習問題は一切なく、ただ文法の説明だけが記述されていて、後半に練習問題が配されている。6までは普通の文法書に似た練習問題が配されているのだが、7からは古典の原典からのかなりの分量をいわゆる読本という形で配している。しかし詳しい注と訳がついているので初級文法書の練習問題として何とか使える構成になっている。

どのようなテキストが練習問題として使われているかを列挙しておこう。

練習10 ロドーピスの話 Herodotus 2.134-5

練習12 ディオゲネースの警句 Diogenes Laertius 6.40

練習13 エジプトの魔法使 Lucianus, Φιλοψευδῆς ἢ ἀπιστῶν 33-36

練習14 ソクラテースの性格 Xenophon, Memorabilia 4.8.11

練習15、18、19 アルゴナウタイ Apollodorus, Bibliotheca, 1.9.16,21,22:

1.23,24,27,28

練習 1 6 ペリクレーズとアルキビアデースの法に関する問答

Xenophon Memorabilia 1.2.40-46

練習 1 7 克己に関するソクラテースの言葉 Xenophon, Memorabilia 1.5.1-5

練習 2 0 海 Xenophon, Anabasis 4.7.19-25

練習 2 1 アルキビアデースのソクラテースにたいする賛辞

Platon, Symposium 220 D-221D

練習 2 2 閻魔の廟での悲劇争い Aristophanes, Renae 755-794

練習 2 3 疫病 Thucydides 2.47-49

練習 2 4 キオスに於るソポクレーズ Ion, Athenaeus 13.603 E-604D

練習 2 5 ステーシレオーンの奮闘 Platon, Laches 183 C-184A

練習 2 6 ソクラテースの死 Platon, Phaedo 117C-118

練習 2 7 ロクリス人の法 Demosthenes, Timocrates 139

練習 2 8 大いなるパーンは死せり Plutarachus, De defect.orac.419A-E

このような内容を含んだ練習問題を使いながら 5 年間初級文法を教えていたのだが、その間受講生の間から難しすぎるという不平は一度も聞かなかった。そしてほとんど脱落者も出さずに、ギリシャ語に興味をもたせながら文法を一通り教えることができた。

以上三つの教科書を比較検討しながら得た結論は、古典ギリシャ語初級文法では、古典から直接文例を探し、選び出し、構文論を中心にして教える教授法が最も適切であることである。

『現代ギリシャ語入門』福田千津子著（大学書林）

長い間古典語の研究に従事していて、ふとホメーロス、ヘロドトスなどの古典期のギリシャ語と現代ギリシャ語はどのような関係にあるのだろうと思い、現代ギリシャ語を学びたいという思いが募っていたときに、目に留まったのがこの入門書である。

この書はドイツ語、中国語、朝鮮語などの入門書と同じく日常会話を基礎として構成されていて、短期間で習得できるように思われた。

Καλημέρα! 「おはよう」という挨拶の言葉から始まり、日常生活のさまざまな

場面を設定して構成されているこの入門書によって、現代ギリシャ語の世界に抵抗なく入ることができ、最初は、全く別の言語と取り組もうという意識で向ったのだが、すぐに古典ギリシャ語と同じ言語だと実感できるようになった。現代語とはいえ、ギリシャ語に関しても日常会話を基本に据えている点に画期性を見る。

『現代ギリシャ語の基礎』八木橋正雄著（大学書林）

ギリシャ人と対等に会話できる程の素晴らしい著者の語学力、そこへ到達する過程の中で観察した資料に基づいて、記述した現代ギリシャ語の詳細な文法書、豊富な例文も現代ギリシャ語の生きた会話の中で自らが収集したものと思われる。なお、氏の専門はキプロス方言の研究である。